

2025年 新年のあいさつ

日本輸送サービス労働組合連合会

執行委員長 関 昭生

結成から5周年を迎え、

運動の着実な前進を確認

社会連帯をさらに推し進める

あけましておめでとうございます。

JTSUは今年、結成5周年をむかえます。当初、二つの単組で出発したJTSUは、西武バスユニオン、JRメカトロサービス労働組合が加わり、個人加盟の組合員の皆さまと共に運動と組織が広がっています。



私たちは輸送サービスに関わる労働組合という立場から、公共交通に関する課題を社会に訴えてきました。これまで「鉄道の未来を地域から考える学習会」や「地域共生フォーラム」を開催し、JTSU議員懇談会を始め、有識者の皆さまやワーカーズコープの皆さま方と意見交換を行い、これからの社会と公共交通のあり方について考えています。

また、これまで取り組んできたポルデウオークや、子ども食堂への関わりなどを通じて社会とのつながりを深めるとともに、今後は地域とつながった働き方についても具体的に考えていきます。



昨年は「政治とカネ」の問題が政界を揺るがした一方で、衆議院議員総選挙での投票率は53・85%と戦後3番目の低さと、政治に対する関心は高まっています。今年は戦後80年の節目の年とともに、参議院議員選挙、都議会議員選挙などが続きます。高齢化、人口減少、格差、貧困など、日本が直面する問題を私たちは避けて通ることはできません。

JTSUは社会連帯の輪をさらに広げ、誰もが安心して働き、暮らせる社会をめざし、組合員・家族の皆さまと共に運動を進めてまいります。今年も一年よろしくお願いたします。

JRメカトロサービス労働組合

執行委員長 杉山 孝太

労働環境・待遇の改善を実現

組合員の声を大切に、

更なる取り組みの強化を

新年あけましておめでとうございます。

昨年はJRメカトロサービス労働組合を結成し、新たな一歩を踏み出した記念すべき年となりました。この決断は、組合員の労働環境・労働条件をより良くし、共に働く仲間たちの権利を守るための重要な一歩でした。組合結成に至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでしたが、JTSUの皆さまの協力と熱意に支えられて無事に単組を結成することができました。

労組結成により、労働環境及び待遇の改善や福利厚生充実、ハラスメント行為の根絶に向けた取り組みは一層強化されました。また、年末手当の増額も実現できたことで、組合員が安心して働ける環境の一つが整いました。今後も引き続き、組合員の声を大切にしながら、より良い労働環境づくりと職場の安全衛生の確保に向けた取り組みを強化していく所存です。そして私たちの活動が、JTSUの活動全体に少しでも有益なものとなるようにこれからも組合員と共に尽力していきます。



止まらない物価上昇、経済の不安定さなど、私たちが取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。こうした中で、労働組合の役割はますます重要になっていきます。JTSUの仲間として、共に持続可能な社会の実現に向けて積極的に行動していきたいと考えていますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。最後に、今年一年が皆さまにとって実り多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。



健全なJR東日本・グループ会社をめざし

起ちあがった仲間と連帯する会

代表 高橋 正憲

安心して暮らせる社会の実現と

労働者・利用者の命と権利を

守り抜くために

米国の大統領選挙でトランプ氏が再選され、

就任を待たずに米国ファーストを掲げ、関税を材料に圧力をかける「トランプ外交」が始まりました。権威主義が台頭する中、経済・安全保障・民主主義の行く末に不安が募ります。各地で紛争が起き、覇権主義が蔓延る中で、我が国の防衛費も倍増され、防衛税の新設も検討されています。二度と過ちを起さないためにも戦争への道は絶対に許してはなりません！



円安に後押しされる様に止まらない物価高騰・実質賃金と年金の目減りの中で、多くの国民は生活苦であえいでいます。自民党派閥の裏金事件に端を発した政治改革も中途半端なものに終始し「国民の怒り」を買い、衆議院議員総選挙での与党の大敗を招きました。これは政治改革の国民の願い・チャンスであり、「政治とカネ」を払拭し、国民本位の政治を取り戻すために野党の結束が鍵となります。「103万円の壁」を巡り、党利党略を優先する所もあり、政治改革の足かせにならないか危惧しています。



JTSUは創設以来、不当労働行為に対し真摯に取り組んできました。脱退パワハラ訴訟やJR東日本八王子駅パンフ配布処分事件等、多くの仲間を支えられて勝利をかち取ってきましたが、不当労働行為や人事権の濫用・不正行為は後を絶ちません。働く仲間と利用者の命と権利を守るため、勝利するまで力強く、私たちは支援していきます。団結してガンパロー！



JTSU議員懇談会

代表 小椋 修平

(足立区議会議員)

不当労働行為や職場で

発生する問題の解決に向けて、

より一層の連帯を

JR東日本輸送サービス労働組合の皆さま

には日頃より大変お世話になり、昨年は衆議院議員総選挙で推薦議員の仲間に対して多大なるご支援を賜り、議員懇談会を代表して心より御礼申し上げます。

私は20代の頃、派遣社員をはじめとする非正規雇用の現場で働いてきましたが、当時、非正規の労働組合は一切なく、正社員の組合員の皆さんが、私たち派遣社員の待遇改善、中途採用の道や、雇い止めの阻止、ハラスメント問題など会社側と交渉していただいたことに深く感謝し、労働組合の意義を実感してきました。現在は、幅広い業種からの組合加盟、結成など、全ての働く仲間のために日々奮闘されている姿勢はとても励みになっています。



しかしながら、未だに続く組合脱退強要、パワハラなど問題は改善しておらず、JR常磐線各駅停車(綾瀬・取手間)のワンマン運転問題では、議員懇談の仲間と連携し、それぞれの議会で質問し、各駅での街頭活動に参加するなど、私たち議員懇談の仲間も一緒に皆さんと連帯しながら、より良い職場づくり、経営効率よりも安全第一の公共交通サービスの実現に向けて全力を尽くしてまいります。



本年夏に執行される都議会議員選挙、参議院議員選挙では、推薦議員の仲間の必勝、そして、不当労働行為を根絶し、誰もが安心して働き続けることのできる社会の実現に向けて、皆さんとより一層連帯してたたかっています。



JTSU顧問弁護士

佐々木 亮

当たり前の労働組合活動への規制を

行う会社姿勢は改められるべき

新年あけましておめでとうございます。

昨年は脱退パワハラ個人訴訟が終結しました。会社ぐるみの不当労働行為であったことは、残念ながら認めさせることはできませんでしたが、あの強烈な脱退工作が吹き荒れた中で「あつたことをなかつたことにはできない」として起ち上がった4名が、最後までたたかい抜いたことは、組織として大きな宝になるものと思います。4名の奮闘と、それをサポートしてきた皆さんの団結力に改めて敬意を表します。



さて、昨年はジョブローテーションをめぐるたたかいかも進行してきました。その中で水戸地本では、これに付随してアンケート調査を職場で行ったことを処分することが相次ぎました。しかし、労働組合が職場の労働者にアンケートをすることは極めて一般的な組合活動です。こうした会社の態度は改められなければなりません。

同様に、八王子地本では組合員獲得のためのパンフレットを勤務時間外に配ったことも問題とされています。東京都労働委員会では勝利命令を得て、その後、中央労働委員会が審査が続いています。こちらも、全くもって当たり前の組合活動を会社が制限してきたものでありますので、やはり改められなければなりません。



本年は、これらのたたかいに新たな進展がある年になるものと思います。我々弁護士は、一つ一つの事件に向き合い、憲法で保障された団結権・団体行動権を実現するよう、各手続の中で奮闘していきたく思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

